

## エゾシカ保護管理検討会（H22.6.17）の開催結果について

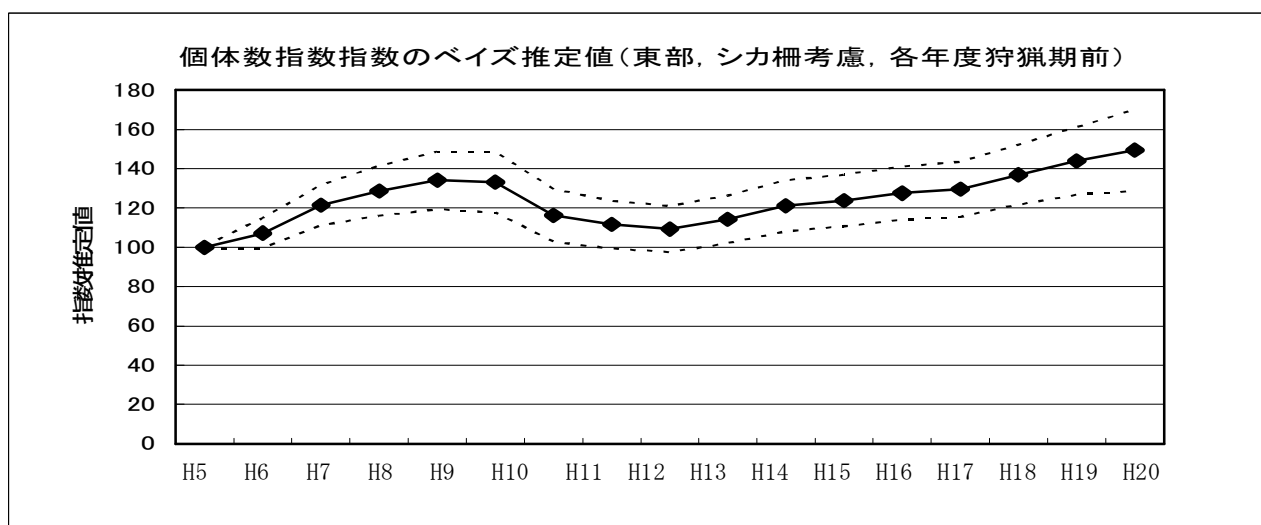
### 1 平成 21（2009）年度エゾシカ個体数指数について

\* 個体数指数：各種調査から得られた結果について、基準年の値を 100 として基準化し、毎年の生息動向を相対値で表したものの。

#### (1) 東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室総合振興局・振興局管内）

**150±20 【平成 21 年 10 月（狩猟期前）時点，平成 5（1993）年度を 100 とした指数】**

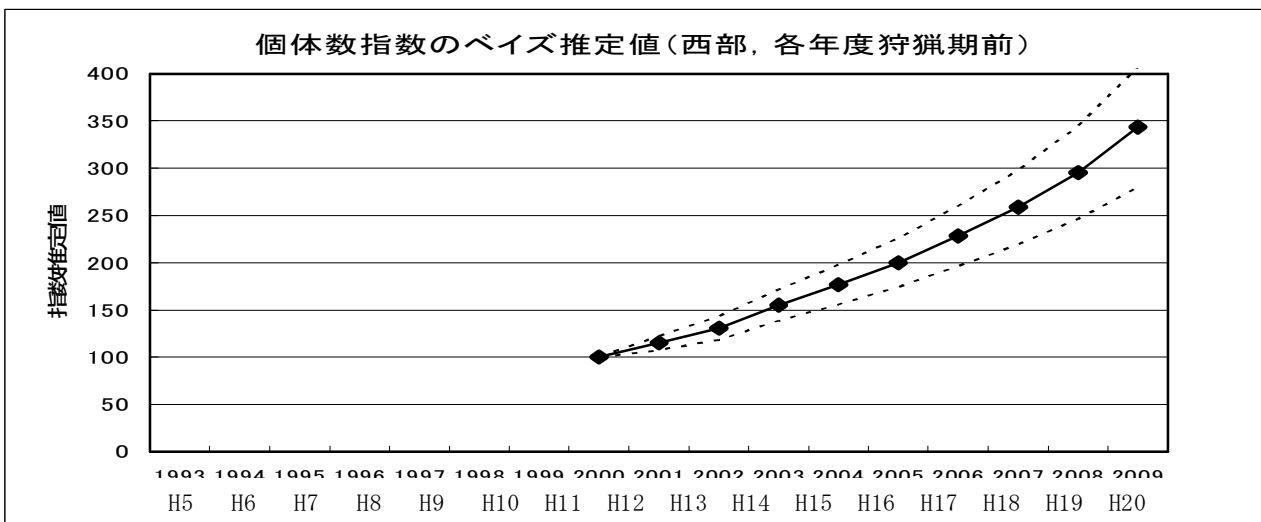
- ・ 東部地域については、平成 14（2002）年頃から増加に転じ、過去最高の個体数に達したと推定される。
- ・ 1 年当りの増加率を 21%と仮定すると、生息頭数は 32 万頭（±7 万頭）と推定される。減少に転じるには、東部地域で少なくとも 4 万頭のメスジカ捕獲が必要である。
- ・ 平成 21（2009）年度の東部のメスジカの狩猟による捕獲数は、2 万頭を超え過去最高の実績を記録し、許可捕獲の実績を含めると、約 3 万 6 千頭となった。
- ・ 東部地域の農林業被害についても、平成 17（2005）年度以後増加し続けている。



#### (2) 西部地域（石狩、空知、上川、留萌、宗谷、胆振、日高総合振興局・振興局管内）

**340±60 【平成 21 年 10 月（狩猟期前）時点，平成 12（2000）年度を 100 とした暫定値】**

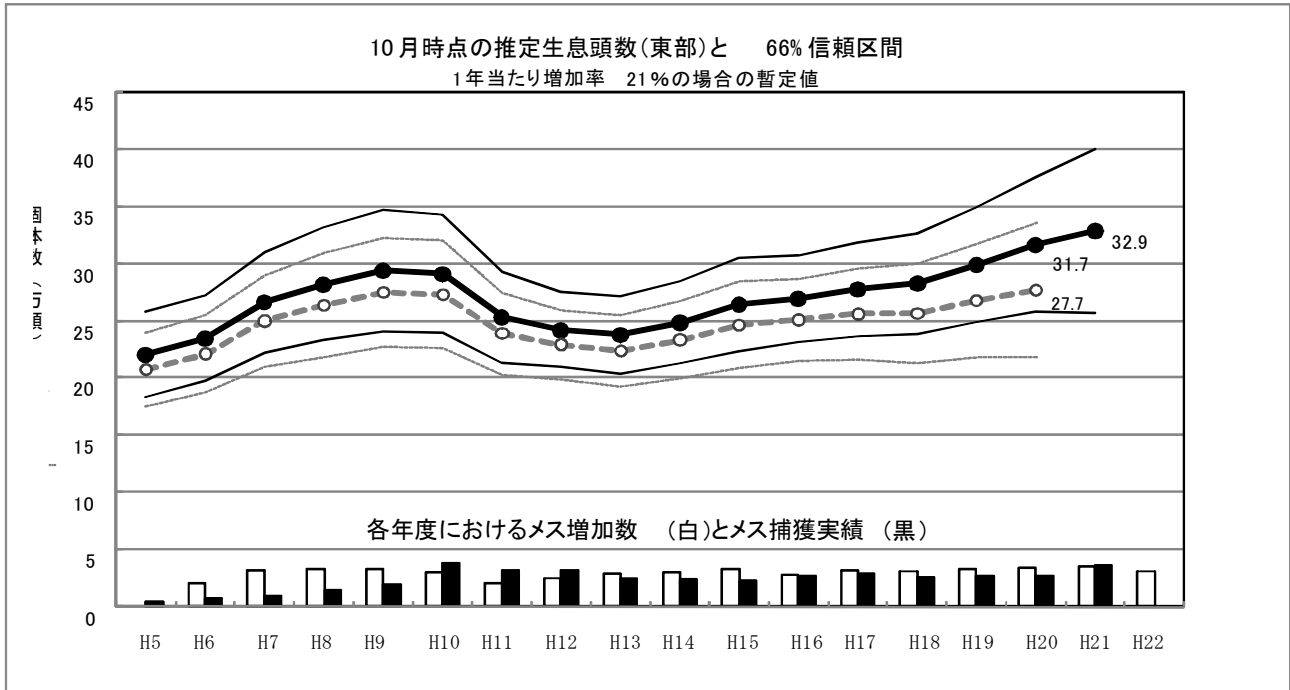
- ・ 西部地域の個体数指数は、全域で急速に増加し続け過去最高となっている。
- ・ 西部地域は既に全体として東部地域と同じレベルかそれ以上の個体数に達しており、増加を食い止めるためには、東部地域並みのメスジカ捕獲頭数が必要である。
- ・ 西部地域は、分布が拡大し続けているため、個体数指数推定手法の改良が必要である。



### (3) 南部地域（渡島、檜山、後志総合振興局・振興局管内）

- 南部地域については調査年が少なく、指数を算定するには情報が足りない。しかし、分布が拡大し局地的に高密度の地域が観察されている。また、自然植生への影響が出始めているため、一層の捕獲圧をかけることが必要である。

## 2 東部地域の推定生息頭数（暫定値，各年度狩猟期前）



- 平成 21 (2009) 年度までのライトセンサス及び捕獲データから推定した各年度の推定生息頭数（黒丸）と 66%信頼区間（黒細線）。
- 平成 20 (2008) 年度までの同様のデータから推定した推定生息頭数（白丸）と 66%信頼区間（破線）。
- 新しいデータが加わるごとに、より精度の高い生息頭数の推定が可能になり、過去の推定数が見直される。
- 棒グラフ（白）は各年度のメスジカ増加数（自然死亡による死亡数は除外）、棒グラフ（黒）は各年度の狩猟と許可捕獲によるメスジカ捕獲数を示す。